



カリウム注射製剤の運用方法を変更します。 取り扱いに十分注意してください！

これまでに、国内でカリウム注射製剤の誤投与事故がたびたび報告されており、様々な安全対策が講じられています。当院においても、複数のカリウム注射製剤が採用されています。

医療安全対策として、**高濃度カリウムアンプル製剤の運用の変更**を行います。カリウム注射製剤の注意点と共にご確認をよろしくお願いいたします。

当院のカリウム注射製剤の運用 (2021年6月薬事委員会、医療安全管理室決定事項)

KCL注20mEqキット「テルモ」 20mL
(ワンショット静注できないキット製剤)



病棟で使用可能

K.C.L.点滴液15% 20mL
(高濃度カリウムアンプル製剤)



**ICU、ACCC、
手術室、救急外来、
血液浄化部（透析回
路内注入のコメント
入り処方に限定）**

アスパラカリウム注10mEq 10mL
(高濃度カリウムアンプル製剤)



NICUに限定

原則として、病棟では、高濃度カリウムアンプル製剤の使用はしない。

**やむを得ない理由により病棟で高濃度カリウム製剤を使用する場合
事前に医療安全管理室(GRM)と協議したうえで投与を行う。
夜間・休日など医療安全管理室(GRM)と連絡が取れない場合
医師が高濃度カリウム製剤の投与に立ち合いの上、実施する。**

赤字・赤枠内：変更点

裏面にカリウム製剤取り扱い時の注意点を記載しています



カリウム注射製剤取り扱い時の注意事項

カリウム注射製剤を急速静注すると、急激に血中のカリウム濃度が上昇し、不整脈や心停止を引き起こす恐れがあります。以下に示す投与方法を確認してください。

- ★カリウムイオン濃度として **40mEq/L** 以下に必ず希釈し、十分に混和した後に投与すること
- ★ゆっくり静脈内に投与し、投与速度はカリウムイオンとして **20mEq/hr** を超えないこと
- ★カリウムイオンとしての投与量は **1日100mEq** を超えないこと



カリウム注射製剤の院内採用品

| 医薬品名 | 一般名 | 組成・剤形 | 注意事項 |
|---------------------------------|---------------|---------------------|---|
| KCL注20mEq キット「テルモ」 (20mL) | 塩化カリウム | 20mEq/20mL/ キット | <ul style="list-style-type: none"> • 必ず専用針を用いて輸液剤等に混ぜて使用すること • 輸液セットの三方活栓や側管（ト字管等）から直接静注しないこと |
| K.C.L.点滴液15% (15w/v%、2モル液) | | 40mEq/20mL/ アンプル | <ul style="list-style-type: none"> • 高濃度のカリウム製剤である（希釈時注意） |
| アスパラカリウム注 10mEq | L-アスパラギン酸カリウム | 10mEq/10mL/ アンプル | <ul style="list-style-type: none"> • 着色されていないため、無色澄明の液である（誤認注意） |

カリウム注射製剤の誤投与の事例

| 事例 | 薬剤 | 詳細 |
|----|-------------------------------|--|
| 1 | K.C.L.点滴液15% (15w/v%、2モル液) | 医師は投与速度、投与方法の指示をせず、看護師が手術中の医師に手術部看護師を介して確認を行うも、認識違いで中心静脈ラインの側管から薬液を注入、SpO ₂ 低下のアラームが鳴ったため注入を中止した。 |
| 2 | KCL注20mEqキット 「テルモ」(20mL) | 上級医がKCL追加を口頭で指示、看護師は専用針をつけず、注射器に薬液を吸い取って研修医に渡した。研修医は静脈ラインの側管に注射器を接続し、注入を行った。 |
| 3 | アスパラカリウム注 10mEq | 主治医より本剤2AのメインIVH内注入の指示と注射箋をリーダー看護師が受け、他の看護師に薬剤の準備と担当看護師への伝達を依頼、担当看護師は側管よりワンショットで注入を行った。 |

※公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報 No.98 2015年1月等 参考

これまでカリウム注射製剤の誤投与に関しては厚生労働省、日本医療機能評価機構等から多くの注意喚起がされてきたものの、死亡例を含む有害事象症例がいまだに発生しています。